事務事業調書	No	456	課 名	ごみ減量推進室	起 案 者	小嶌政道
平成23年度			係 名	ごみ減量係	決 裁 者	荻須篤
事 業 種 別	市民サービス		区 分	継続	業務一覧No	14, 21
事務事業名	資源リサイクル事業				他 係名	
					他係 業務一覧No	

1 事務事業の位置付けと起案事由(事業の必要性)

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 2 資源循環 1 ごみ 2 資源化 4 リサイクルの推進	予算科目(会計)	一般会計
		予算科目(款・項・目)	20-10-5
		総合計画以外の計画	環境基本計画
		関連する総合計画の施策	
性質区分	市の内部事務事業	法定受託事務	無
根拠法令	無		
実施方法	全部委託	委託先	民間企業, 行政関連団体
実施期間	開 始 平成14年度	経 過 9年目	終 了 期 間
公約・議会答弁	有	H17. 12曜日を限定して移動型ステーションを設置	
陳情・市民要望	無		

2 事務事業の概要

求める成果	誰(受益者)が	広く市民が	～になる	ごみの再資源化に関心を持ち分別するようになる。

事務事業の内容

ごみの再資源化を促進するために、リサイクルステーションの設置と集団資源回収等に対する報償金事業を実施します。
ごみの再資源化と減量の啓発活動として、粗大ごみの家具等の再生及び販売を実施します。

事務事業進捗状況

御幸リサイクルステーションの開業日を増やし利用促進を図りました。また、民間活力を取り入れより一層の利用促進を目指し、同ステーションの運営管理をごみ減量等を含む環境問題に取組むＮＰＯ法人に委託することを検討し、Ｈ２３年度より実施します。（環境首都推進課にて実施）
リサイクルステーションでの回収量は、毎年増加し、平成２２年度実績で見込みを上回る３，６２５トンとなりました。

改善・対策の履歴

Ｈ19年度：御幸日曜リサイクルステーションを開設しました。（２０年度には、土曜日も開設）
Ｈ20年度：資源ごみステーションで古紙の収集を開始しました。北部リサイクルステーションを区画整理事業の進捗に応じ移設しました。
Ｈ21年度：古着を古紙収集に合わせて収集ました。桜井リサイクルステーションを区画整理事業の進捗に応じ、移設しました。
Ｈ22年度：御幸本町リサイクルステーションの開業体制を土日から毎日に拡充しました。

環境配慮の視点

環境目標○－基本的施策○－具体的施策○

3 事務事業の事業費(千円)、人員推移(人)

	項 目		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度
			目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)	実績	目標(予算)
コスト	総事業費 f=a+d+e		35, 172	87, 580	102, 111	94, 422	106, 311	96, 157	101, 606
	財 源 計 a		32, 160	84, 568	94, 581	86, 892	99, 910	89, 756	95, 582
	財源の内訳	国 庫 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0
		県 支 出 金	0	0	0	0	0	0	0
		市 債	0	0	0	0	0	0	0
		その他( )	0	30, 923	28, 800	16, 246	13, 200	23, 311	12, 780
		一 般 財 源	32, 160	53, 645	65, 781	70, 646	86, 710	66, 445	82, 802
	受 益 者 負 担 金		0	0	0	0	0	0	0
	職 員 人 件 費 d		3, 012	3, 012	7, 530	7, 530	6, 401	6, 401	6, 024
	内 訳	従 事 職 員 数	0. 40	0. 40	1. 00	1. 00	0. 85	0. 85	0. 80
	人事課予算分人件費 e		0	0	0	0	0	0	0

4 求める成果を得るための活動

				年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
活動	活動①	活動名（活動内容）	リサイクルステーションの管理（資源回収）	見込(単位)	7.00	6.00	6.00	5.00
				実績b(単位)	6.00	6.00	6.00	
		指標名(単位)	管理数(ヶ所)	活動の総事業費f 実績	20,335	21,357	21,092	
				単位コストg=f÷b 実績	3,389.23	3,559.57	3,515.33	
	活動②	活動名（活動内容）	リサイクルフェアの開催（再生家具販売の開催）	見込(単位)	12.00	12.00	12.00	12.00
				実績b(単位)	12.00	12.00	12.00	
		指標名(単位)	開催回数(回)	活動の総事業費f 実績	2,144	2,743	2,224	
				単位コストg=f÷b 実績	178.67	228.58	185.32	
	活動③	活動名（活動内容）	住民説明会等によるリサイクル啓発	見込(単位)	0.00	0.00	0.00	73.00
				実績b(単位)	0.00	0.00	71.00	
		指標名(単位)	開催回数(回)	活動の総事業費f 実績	0	0	527	
				単位コストg=f÷b 実績	0.00	0.00	7.42	

5（1） 成果の目標と実績

		指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
成果	成果1	リサイクルステーションの回収量（t）	見込(単位)	2,500.00	3,864.00	4,249.00	4,409.00
			実績(単位)	4,549.00	5,151.00	5,415.00	
			達成状況	達成	達成	達成	
		目標成果指標値	5,139.00	目標達成年度	平成26年度		
	成果2	指標名・指標式(単位)	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
		資源ごみ回収量（リサイクルステーションを除く）（t）	見込(単位)	0.00	0.00	0.00	10,040.00
			実績(単位)	0.00	0.00	9,786.00	
			達成状況				
		目標成果指標値	0.00	目標達成年度			

5（2） 成果１、２以外の成果

	市民の意見、利害関係者の声などをプラス・マイナス両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
成果	市民から家具等をごみとして捨てるのではなく、必要な人に利用してもらう仕組みづくりの要望等もあり、市民の意識の向上が伺えます。

6 単位コストと成果の分析

	項目	どのような内部の取り組みや外部要因が影響を与えたのか、プラス・マイナスの両面からコスト、成果に分けて具体的に記入
分析	単位コスト	集団資源回収の収集量の落ち込みで、単位コストの上昇を招いている。
	成果1，2	資源ごみの収集量は、21年度より増加しているが、集団資源回収は20年度に比べ大きく減少したままである。しかし、可燃ごみの市民一人当たりの排出量は減っており資源ごみの分別に対する市民の取り組みは進んでいると言える。

7 所属長の改善案

	コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案、市民にわかりやすく説明する
改善	市民が排出するごみの量が削減されることによる回収量の増減の動向に留意し、取組み方法について費用対効果を考慮し検討すること。 H23年度から試験的に実施するＮＰＯ法人のリサイクルステーションの運営成果の検証結果を考慮し、今後のステーション運営方法等を検討すること。

8 方向性

方向性	必要性、効率性、有効性を踏まえ、今後どのように事業を進めるか、方向性を選択し、内容を市民に説明します
維持・継続	可燃ごみの排出量削減には、再生資源の分別が重要である。分別を定着化するためには再生資源の回収場所の整備は欠かせないものであるため、リサイクルステーション及び集団回収等の複数の仕組みを継続させることが必要である。